

第 60 回シェイクスピア学会 研究発表ならびにセミナー・メンバー募集要項

第 60 回シェイクスピア学会は 2022 年 10 月 1 日(土)、2 日(日)の 2 日間
にわたり、甲南大学(兵庫県神戸市)にて開催されます。つきましては、下記に
より研究発表ならびにセミナー・メンバーを募集いたします。応募規定をご覧の
うえ、奮ってご応募ください。

新型コロナウイルス感染状況によっては、オンライン開催になる可能性もあり
ます。学会をオンラインで開催する場合には、協会ホームページなどで 5 月頃に
告知します。

記

◇研究発表【応募要項】

(締め切り日にご注意ください。応募方法は E メールです。)

1. 一般研究としテーマを問いません。ただし、未発表のものに限ります。
2. 応募者は研究発表概略(和文 2,000 ~ 4,000 字、または英文 800 ~ 1,500 語)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル(A4 用紙縦設定の横書)にして E メールに添付してください。
3. 学会プログラム資料原稿用に、研究発表要旨(和文 400 字、または英文 150 語以内)を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル(A4 用紙縦設定の横書)にして E メールに添付してください。
4. 簡単な経歴書を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル(A4 用紙縦設定の横書)にして E メールに添付してください。
5. 応募者の氏名・所属・肩書き・連絡先住所・電話番号・E メールアドレスを E メール本文に明記し、上記 2.「発表概略」3.「要旨」4.「経歴書」の計 3 点のファイルを添付して、日本シェイクスピア協会(学会担当)宛に送信してください。なお、以上 2 ~ 4 の書類はそれぞれ独立のファイルとして添付してください。
6. 応募 Eメールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当)
ssj-conference@nifty.com とし、件名に「研究発表応募」と明記してください。
7. 応募原稿ファイルは返却いたしませんのでコピーをお残してください。
8. 締め切りは **2022 年 6 月 11 日(土) 正午**です。
9. 審査結果は 7 月中旬に応募者あてに通知いたします。
10. 日本シェイクスピア協会会員であること(=当該年度の会費納入者)が応募の資格です。

◇セミナー：学会2日目に以下の3つのセミナーを企画しました。

【応募要項】(締め切り日にご注意ください。応募方法はEメールです。)

1. 下記セミナーのうち1つのみ応募できます(応募は会員に限ります)。
2. ご希望のセミナーテーマを明記のうえ、ご発言の「主旨」を、日本語200字以内(または英語100～150語)にまとめ、WORDまたはリッチテキスト形式のファイル(A4用紙縦設定の横書)にしてEメールに添付してください。また「氏名・所属・肩書き・連絡先住所・電話番号・Eメールアドレス」をEメール本文に明記してください。
3. 応募Eメールの送信先を日本シェイクスピア協会(学会担当)
ssi-conference@nifty.comとし、件名に「セミナーメンバー応募」と明記してください。
4. 応募締切は**2022年5月6日(金)正午**です。
5. 各セミナーとも、コーディネイターと協議のうえ、メンバーの数を限ることがあります(コーディネイターは会員外のゲストを1名入れることができます)。
6. 応募の採否については6月下旬までに本人宛に通知します。
7. セミナーメンバーに決定した方は、研究発表に重ねて応募することはできませんので、ご注意ください。

なお、セミナー3は、学生・若手を含め、より広く会員に対して開かれたものとなります。修士課程の大学院生も含めて、学生会員の皆様もぜひ奮ってご応募ください。

各セミナーの①コーディネイター、②テーマ、③指針は次の通りです。

《セミナー1》

①土井 雅之(文教大学准教授)

コメンテーター：篠崎 実(千葉大学教授)

②劇作家の仕事

③ 約半世紀前の1971年に出版された、G・E・ベントリー(G. E. Bentley)の著書『シェイクスピア時代、1590年から1642年までの劇作家の仕事』(*The Profession of Dramatist in Shakespeare's Time, 1590-1642*)は、職業劇作家の登場が近代初期ロンドンの演劇産業を確立するのに極めて重要であったと論じ、劇作家を職業として成り立たせる地位、劇団との関係、給料、契約上の義務、規制と検閲、共作、改作、出版に焦点を当てた。劇作家たちの創作行為を仕事と位置づけ、その後の研究に新たな視座を設けたといえる。本セミナーはその後の研究成果も踏まえつつ、演劇作品実現での各段階における創作行為の実相を、創作の背景としてではなく、作品の読解を中心にして考えていく。具体的には、作品解釈を通して、「劇作品の執筆から完成まで」、「新作とリヴィジュアル」、「大衆劇場での興行」、「宮廷上演と宮廷演劇」、「上演と戯曲の出版」といった諸相の考察を試みる。

《セミナー2》

①松山 響子（駒澤女子大学准教授）

コメンテーター：末松 美知子（群馬大学教授）

② 2010年代の日本/日本語のシェイクスピア上演を問う

③ ほぼ全作品を上演して2021年に幕を閉じた「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の成功は日本や日本語でのシェイクスピア上演に少なからず影響を与えた。2010年以降、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」に限らず、大規模な劇場での上演や、俳優座、宝塚歌劇団、劇団☆新感線などの特定の劇団による上演や改作公演も数多く行われている。そして、2020年からはパンデミックの影響により上演の配信がさかんに行われるようになった。本セミナーでは2010年以降の「彩の国シェイクスピア・シリーズ」後半期の「蜷川幸雄的な演出」が劇場の規模を問わず、どのような影響を与えたのかを考えていきたい。また、来日公演や「NTライブ」などによる海外公演への容易なアクセスは日本や日本語で行われたシェイクスピア公演に影響を与えたのかどうかについても考察を加えたい。各自の興味のある公演のケース・スタディーを通して「日本/日本語でシェイクスピア上演」を行う意味を問い直してみたい。大学院生の応募もお待ちしております。

《セミナー3》

①団野 恵美子（大阪芸術大学教授）

コメンテーター：竹村 はるみ（立命館大学教授）

②『お気に召すまま』を読む

③ シェイクスピアの喜劇『お気に召すまま』については、すでに多種多様な観点からの研究がなされてきました。逃亡者を受け入れる緑の世界、異性装するロザリンド、ジェンダーや社会構造の関係など、同じように見えるテーマでも、新しい角度から照らし出されるたびに、その解釈はより深いものになっていきます。ジェイクイズの“All the world’s a stage”は、BBCのドラマ予告CMにも使われ、明朗闊達なロザリンドの系譜には『女番長またの名を女怪盗モル』のメアリ・フリス、沼地を闊歩する『高慢と偏見』のエリザベス、作家として独立心に燃える『若草物語』のジョーなどが連なります。このセミナーでは、本作品の先行研究や現在までの上演、翻案に目配りしながら、エリザベス朝の歴史や文化、社会背景、階級やジェンダー、フェミニズムなど様々な視野から『お気に召すまま』を解釈したいと思います。芝居の台詞と社会状況を合わせて読みながら、現代の観客・読者の知見を広げ、喜劇の本質を探っていきましょう。大学院生（修士課程を含む）及び若手研究者の方々の参加を特にお待ちしております。